

公立大学法人長野大学  
第1期中期目標期間業務実績  
に関する評価書  
(平成29年度～令和4年度)

令和5年8月

上田市公立大学法人評価委員会

## ◆ 目 次

I	中期目標期間の業務実績評価（期間評価）について	3
II	評価結果	
1	全体評価	4
2	大項目別評価	5

### 上田市公立大学法人評価委員会 委員

役職	氏 名	所 属・職 名
委員長	たむら しげる 田村 秀	長野県立大学グローバルマネジメント学部 教授
委員長職務代理者	とりい のぞみ 鳥居 希	株式会社バリューボックス 取締役
委 員	さとう あきお 佐藤 明生	元信州大学大学院 教授・学長補佐
委 員	しろした とおる 城下 徹	城下工業株式会社 代表取締役
委 員	にしまき あつこ 西牧 敦子	西牧敦子税理士事務所 税理士

# I 中期目標期間の業務実績評価（期間評価）について

上田市公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第78条の2に基づき、「業務実績の評価に関する基本的な考え方」及び「公立大学法人長野大学の中期目標期間の業務実績評価（期間評価）実施要領」により、公立大学法人長野大学（以下「法人」という。）の中期目標の達成状況について、評価を行った。

## 1 評価に関する基本的な考え方

- (1) 評価は、教育研究の特性、自主性、自律性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (2) 評価は、中期目標・中期計画の達成状況を踏まえ、法人の業務実績全体について総合的に行う。
- (3) 評価は、一連の過程を通じて、法人の状況を分かりやすく示し、社会への説明責任を果たすものとする。
- (4) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。
- (5) 評価の仕組みについては、必要に応じて工夫・改善を行う。

## 2 評価方法

期間評価は、その目的を効率的かつ効果的に達成するため、法人がその業務実績に基づいて行う自己評価結果を踏まえ、中期目標の達成について総合的な評価（全体評価）を行った。

### ・全体評価

中期目標の全体的な達成状況を総合的に勘案して評価を行った。

### ・大項目別評価

中期計画における5つの大項目（8区分）ごとに中期目標の達成状況を総合的に勘案して評価を行った。

評価区分	評定	標語	評価の目安
大項目別評価	A	中期目標の達成状況は良好である	業務実績及び中期目標期間の中期計画の達成状況について、総合的に勘案し、評価
	B	中期目標の達成状況は概ね良好である	
	C	中期目標の達成状況はやや不十分である	
	D	中期目標の達成状況は不十分である	
全体評価		中期目標の達成状況は良好である	中期目標全体の達成見込について、大項目別評価から総合的に勘案し、評価
		中期目標の達成状況は概ね良好である	
		中期目標の達成状況はやや不十分である	
		中期目標の達成状況は不十分である	

## II 評価結果（全体評価／大項目別評価）

### 1 全体評価

#### （1）評価結果

**中期目標の達成状況は概ね良好である。**

#### （2）評価理由

平成 29 年度に開学した公立大学法人長野大学は、地域に根ざした大学として、教育と研究を推進し、豊かな人間性と高い専門性及び国際的な視座をもった実践力のある人材を育成し、地域の産業及び社会の発展に貢献する知の拠点を形成することを目的に設立された。

公立大学として、初めての中期目標の達成に向けて、理事長及び学長のリーダーシップのもと、責任ある意思決定を迅速に行い、大学全体で熱心に取り組み、今までに経験したことがない新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を大きく受ける中であっても、中期計画を着実に実施されており、その業績は、全体として評価できる。

また、毎年度の各事業年度の業務実績評価も、大学の努力により、年々改善されてきており、令和 3 年度に実施した第 1 期中期目標期間終了時見込業務実績評価においても、「中期目標の達成状況は概ね良好となる見込み」と評価した。

第 1 期中期目標期間においては、長野県内初となる福祉系大学院として、地域の課題に対応できる専門的な知識や技術を研究開発し、高度な専門性を持つ人材を育成することを目的に、長野大学で初めてとなる長野大学大学院総合福祉学研究科が令和 3 年度から開設された。定員未充足という課題を克服し、地域の課題に対応できる高度な専門性を持つ人材を育成することに期待する。

さらに、理工系学部の新設や既存学部の統合等の学部学科再編について、再編構想や施設整備に対し、具体的な方向性が示されるなど、着実に推進しており、今後、理事長と学長のリーダーシップのもと、中期目標に掲げた大学改革に教職員が一体となって取り組み、地域の期待に応える大学として発展することに期待する。

また、令和 2 年からは、新型コロナウイルス感染症の対策を余儀なくされたが、オンライン授業へ対応しつつ、多くの授業で地元や企業と連携するプロジェクトを継続したり、学生一人ひとりに連絡を取り就職活動の状況を確認するなど、きめ細かい学生サポートなどに取り組み、これまでに経験のない状況下において、教育研究、学生の健康、就職など様々な場面で適切な大学運営を行ったことは、評価できる。

以上のような状況や 8 つの大項目別評価結果の状況を総合的に勘案し、**全体評価は「中期目標の達成状況は概ね良好である」と評価する。**

令和 5 年 6 月、地方独立行政法人法の改正により、公立大学法人は、各事業年度における年度計画及び年度評価が廃止され、中期計画の期間中に中間評価及び期間評価の評価を行うことに法改正された。このことは、大学の第 2 期中期計画の実現に向け、自主的な強い意志と行動、より自律的な運営、及び、内部統制による適正なガバナンスが必要とされる。

今まで以上に、自ら律し、学生ファーストの大学改革を推進し、そして設立者である上田市との連携をより緊密にし、様々な事業を着実に、進めてもらいたい。

さらに、第1期中期目標で解決できなかった諸課題を早期に解決できるよう方向性を示し、大学の最重要ミッションである理工系学部設置に結びつけ、より深化した大学として、学生に選ばれる魅力ある大学となるよう期待する。

表 大項目別評価 一覧

大項目（8区分）		評価	評語
第2 大学の教育研究 等の質の向上に 関する目標	1 教育に関する目標	B	中期目標の達成状況は概ね良好である
	2 研究に関する目標	B	中期目標の達成状況は概ね良好である
	3 地域貢献、地域の人材育成等に関する目標	B	中期目標の達成状況は概ね良好である
	4 国際交流に関する目標	B	中期目標の達成状況は概ね良好である
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標		B	中期目標の達成状況は概ね良好である
第4 財務内容の改善に関する目標		B	中期目標の達成状況は概ね良好である
第5 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標		B	中期目標の達成状況は概ね良好である
第6 その他業務運営に関する目標		B	中期目標の達成状況は概ね良好である

### （3）課題・改善点や業務運営等に対する意見

#### ①【教育】学部学科再編について

理工系学部の設置及び学部学科再編は、第2期中期計画における最重点課題と位置づけるように、その成否が将来の大学経営を左右し得る重要な取り組みである。令和8年度の学部設置及び学部学科再編に向け、理事長と学長のリーダーシップのもと、経営陣と教職員が一丸となって、優れた教員の確保、施設整備や制度改善など開設に向けて精力的に取り組み、大学と地域の発展に向けた今後の着実な取組に期待する。

#### ②【教育】教育研究の強化及び教職員評価制度について

教育研究の強化を目指し、中期計画の数値指標の設定など、現状に満足せず、高い目標の実現に向けて積極的に取り組んでもらいたい。教員評価制度については、研究業績等の把握、評価基準の設定、評価結果に対するインセンティブの反映など制度の運用を更に発展されることを期待する。

また、職員評価制度については、制度整備が完了したところだが、第1期中期目標期間中には実施に至らなかったため、令和5年度から早急に制度運用を開始し評価の結果を業務改善につなげてもらいたい。

#### ③【研究】競争的外部資金について

研究交流広場の開催や申請支援等を通じて、科学研究費補助金等の競争的外部資金の申請率も改善してきており、教員の研究活動が活性化しているが、まだ申請率は高いとは言えない。教員の自発的な申請を助長する仕組みづくりや雰囲気づくりなど、裾野を広げていくための努力や継続に向けた取り組みが必要である。

また、研究推進の観点から行う外部研究資金の運用改善に関しては、早急に検討し、具体的な措置を講じる必要がある。

#### ④【地域貢献】地域づくり総合センターについて

地域づくり総合センターが創設され、この6年間で地域の総合的課題解決プロジェクト、地域人材育成プログラム、まちなかキャンパスうえだ、生涯学習事業、小中高大連携事業、地域連携事業など、本センターの柱となるプロジェクトや事業等が着実に推進され、長野大学と地域との連携拠点として、その重要性はさらに増してきている。

これに加え、本センターは、企業との窓口として、産学官連携の拠点としても大きな役割を担っていくべきであり、今後の取り組みに期待する。

#### ⑤【業務運営】コンプライアンス強化について

中期目標期間中に発生した、ハラスメント案件や職員による交通違反などの重大なコンプライアンス違反を重く受け止め、再発防止の徹底と意識向上へ向けた取り組みの継続を強く求める。

### (4) 参考

#### (ア) 年度評価及び見込評価における全体評価の状況

年 度	評価結果
平成 29 年度	中期計画の進捗は概ね順調 ※公立大学として初年度のため体制の整備などもあり、やや遅れている点も認められるが、年度計画の不断の見直しにより中期計画全体の中では取り返しも可能であり概ね順調と判断する。
平成 30 年度	中期計画の進捗は概ね順調 ※ただし、依然進歩がない学部学科再編等に係る事業もあり、中期計画の達成が危ぶまれる事業も見受けられるため、早急な対応を求める。
令和元年度	中期計画の進捗は概ね順調 ※大学院設置や学部再編に向けた取組みが動き始めているものの、具体化に至っておらず、対応は遅く感じられる。知の拠点としての公立大学の役割を果たすため、様々な状況を想定したシミュレーションに基づく将来計画の策定の対応が必要である。
令和 2 年度	中期計画の進捗は概ね順調
見込評価	中期目標の達成状況は概ね良好となる見込みである。
令和 3 年度	中期計画の進捗は概ね順調
令和 4 年度	中期計画の進捗は概ね順調

## 2 大項目別評価

### (1) 教育に関する目標（重点事項）

<b>B</b>	中期目標の達成状況は概ね良好である
----------	-------------------

#### ア 評価理由

- ・地域の人々とともに、地域課題を発見し、その学修活動を通じて、地域課題の解決に役立つ能力を育成する「地域協働型教育」が展開されている。（項目 10）

年 度	H29	H30	R1	R2	R3	R4
課題解決型プロジェクト件数	19	55	42	67	113	127

- ・全教員を対象とした教員評価制度が運用され、教員の意識改革及び教育研究活動の活性化が図られている。（項目 19）
- ・キャンパスミーティングを開催し、学生と大学のコミュニケーションの円滑化を図り、学生からの要望に応えるなど、教育環境の整備に努めており、一定の成果が出ている。（項目 28）
- ・多様な相談内容に対応し、学生が健康で充実した生活を送れるよう、相談員を配置するなど、心身の健康支援体制の充実を図っており、加えて、健康診断の受診率も向上している。（項目 29）
- ・コロナ禍においても「夢チャレンジ制度」や「学生表彰制度」を設け、意欲的な学生の活動を支援し、課外活動の活性化を促進している。（項目 33、34）
- ・学生の出席状況や単位修得状況により、支援が必要な学生について、定期的に関係機関で情報共有し、連携して学生を支援するなど、退学率の減少に取り組んでいる。（項目 37）

年 度	H29	H30	R1	R2	R3	R4
退学率[%]	2.70	2.57	2.54	1.99	1.37	1.53

- ・各学年に合わせたキャリアガイダンスを開催し、定期的に学生の状況を把握し、就職活動支援に取り組んでおり、毎年、高い就職率を維持している。（項目 43、48）

年 度	H29	H30	R1	R2	R3	R4
就職決定率[%]	98.4	99.8	99.0	99.0	98.6	98.1

以上、法人のこれまでの業務実績を総合的に勘案すると、**B評価（中期目標の達成状況は概ね良好である）**が相当である。

#### イ 今後の課題とする事項

- ・授業アンケートの目的である学生の声を授業改善につなげる取組となるよう、学修成果の可視化を図るとともに、学修者本位の教育に向けたより一層の効果的な取組が望まれる。
- ・教員評価制度で高評価を受けた教員に対する研究費の追加支給等のインセンティブ向上策の実施など、教員の資質向上や更なる教育研究活動の促進に引き続き、取り組んでもらいたい。
- ・地元高校との連携を強化するなど、大学の魅力を高校生や保護者、高校教員にPRしていくよう、上田地域定住自立圏域内の学生確保に向けた取組を継続的に取り組んでもらいたい。
- ・地域企業との交流を促進するなど、学生の市内就職、県内就職定着に向けた取組をさらに強化されたい。

【参考】過去の評価における中期目標及び中期計画の進捗状況評価

年度	H29	H30	R1	R2	見込	R3	R4
評価	B	B	B	B	B	B	B

進捗状況評価基準
A：順調、B：概ね順調、C：やや遅れている、D：遅れている

(2) 研究に関する目標（重点事項）

<b>B</b>	中期目標の達成状況は概ね良好である
----------	-------------------

ア 評価理由

- 大学独自の研究助成金制度である「長野大学研究助成金」を整備し、学長のイニシアティブのもとで共同研究を推進する体制を構築し、外部機関との共同研究や受託研究に繋がっている。(項目 61)

年 度	H29	H30	R1	R2	R3	R4
採択数[件]	9	12	14	14	11	15
研究助成金[円]	3,342,680	4,356,500	4,950,680	4,600,000	3,842,060	4,900,000

- 国立研究開発法人水産研究・教育機構中央水産研究所旧上田庁舎の施設・土地を取得し、淡水生物学研究所を令和3年4月に設置した。水産庁事業を中心に大型プロジェクトを推進するなどして、外部資金（275,750[千円]）の獲得など、各種研究活動等に取り組んでいる。(項目 61)
- 科学研究費補助金にかかる専門家による勉強会及び個別面談や申請書添削の実施、また、外部資金獲得者に対し、インセンティブを与える制度の構築など、組織的に競争的外部資金の獲得に向けた取組を推進したことで、競争的外部資金新規申請率は、目標(43.5%以上)を上回った。(項目 62、63)

年 度	H29	H30	R1	R2	R3	R4
外部資金新規申請率[%]	28.0	42.3	55.9	54.2	50.8	45.7

以上、法人のこれまでの業務実績を総合的に勘案すると、**B評価（中期目標の達成状況は概ね良好である）**が相当である。

イ 今後の課題とする事項

- 競争的外部資金申請数が増加の傾向だが、全学的な取組として更なる採択件数の増加が望まれる。
- 淡水生物学研究所は、特色ある教育研究の拠点となる可能性を有しており、体制を整備し、着実に発展させることを期待する。淡水生物の領域だけでなく、様々な領域で広く活用され、地域産業等の将来に貢献できる施設となるよう、産業界との連携も図ってほしい。
- 法人による自己点検時点で研究指標（論文数など）がとりまとめられていなかった点は問題であり、今後、毎年度、定期的に情報を集めるなど、大学の研究力の把握を迅速に行う仕組みを構築する必要がある。

【参考】過去の評価における中期目標及び中期計画の進捗状況評価

年度	H29	H30	R1	R2	見込	R3	R4
評価	C	B	B	B	B	B	B

進捗状況評価基準
A：順調、B：概ね順調、C：やや遅れている、D：遅れている

### (3) 地域貢献、地域の人材育成等に関する目標（重点事項）

<b>B</b>	中期目標の達成状況は概ね良好である
----------	-------------------

#### ア 評価理由

- ・大学の地域貢献活動の窓口として、「地域づくり総合センター」を創設し、地域活動情報を集約する仕組みを構築している。(項目 65)
- ・地域人材育成プログラムとして、信州大学等と連携し推進するとともに、上田市と連携して「地域づくり人材育成講座」を実施するなど、地域コミュニティや市民が主体的に地域課題の解決に取り組むことができるよう、人材育成に取り組んでいる。(項目 67)
- ・まちなかキャンパスうえだを上田市の中心市街地で、大学と地域の連携拠点として運営し、市民向け講座などを開催し、生涯学習の機会を提供し、市民サービスの充実を図っている。(項目 68)
- ・総合型選抜及び学校推薦型選抜において、特別枠を設定し、上田地域定住自立圏域内出身者の進学機会の確保を図っている。(項目 69)

年 度	H29	H30	R1	R2	R3	R4
入学定員[人]	60	65	65	80	80	80
志願者数[人]	106	96	98	144	131	147
入学者数[人]	58	47	56	78	82	80

- ・長野県内の小中学校に教員を派遣し、総合学習支援事業を協働で実施し、職員研修、通級指導教室等の事業に取り組んでいる。(項目 75) (小中学校 講師派遣 272 件/6 年間)

以上、法人のこれまでの業務実績を総合的に勘案すると、**B評価（中期目標の達成状況は概ね良好である）**が相当である。

#### イ 今後の課題とする事項

- ・地域づくり総合センターが創設され、この6年間で地域の総合的課題解決プロジェクト、地域人材育成プログラム、まちなかキャンパスうえだ、生涯学習事業、小中高大連携事業、地域連携事業など、本センターの柱となるプロジェクトや事業等が着実に推進され、長野大学と地域との連携拠点として、その重要性はさらに増してきている。これに加え、本センターは、企業との窓口として、産学官連携の拠点としても大きな役割を担っていくべきであり、今後の取り組みに期待する。
- ・自治体の審議会の委員委嘱を受け、また講師派遣を行うなど、これまで下表のとおり地域の発展のため、各計画策定等に協力している点は評価できるが、令和3年度より、件数が減少しているため、理由の詳細な分析を行う必要がある。

年 度	H29	H30	R1	R2	R3	R4
委員委嘱[件]	170	181	249	194	121	70
講師派遣[件]	220	363	279	166	118	94

#### 【参考】過去の評価における中期目標及び中期計画の進捗状況評価

年度	H29	H30	R1	R2	見込	R3	R4
評価	B	B	B	B	B	B	B

進捗状況評価基準
A：順調、B：概ね順調、C：やや遅れている、D：遅れている

#### (4) 国際交流に関する目標

<b>B</b>	中期目標の達成状況は概ね良好である
----------	-------------------

##### ア 評価理由

- ・日本に就職を希望する留学生の就職支援を行い、希望通りに就職が決定している。(20人/6年間)  
(項目 78)
- ・国際社会に求められる人材を育成するため、海外大学10大学と学術交流協定を締結するなど、学生の海外研修・留学を推進する教育環境づくりに取り組んでいる。(項目 80)
- ・留学支援ブースを設置し、留学や英語習得の相談を受け付け、留学を希望する学生への情報提供に努めている。(項目 80)
- ・留学生支援の専任スタッフを配置し、留学生の支援等に取り組んでいる。(項目 81)

以上、法人のこれまでの業務実績を総合的に勘案すると、**B評価（中期目標の達成状況は概ね良好である）**が相当である。

##### イ 今後の課題とする事項

- ・新型コロナウイルス感染症の影響(令和2年～)により、目指す取り組みが進まなかったことは、理解できるが、意欲ある学生の海外留学等の機会の提供、留学生受け入れ、英語圏等の海外大学との学術交流協定の締結など、更なる取組を進められたい。
- ・海外提携大学として複数年にわたって進捗のない大学から、他の大学への切り替えが遅れたために機会損失があったと考えられる。今後は、計画の変更における迅速な意思決定を期待する。
- ・地域産業の国際化に寄与するとともに、留学生への支援の充実を図られたい。
- ・理工系の国際協力が理工系学部設置後速やかに実施されることを意識して、目標高く取り組むことを期待する。

##### 【参考】過去の評価における中期目標及び中期計画の進捗状況評価

年度	H29	H30	R1	R2	見込	R3	R4
評価	C	C	B	C	B	B	B

進捗状況評価基準
A：順調、B：概ね順調、C：やや遅れている、D：遅れている

#### (5) 第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標（重点事項）

<b>B</b>	中期目標の達成状況は概ね良好である
----------	-------------------

##### ア 評価理由

- ・長野大学ビジョンを策定するなど、公立大学として進むべき方向性を提示した。理事会においては、ガバナンス強化のため外部理事を4名に増員し、また、まだ十分な割合とは言えないが女性理事も2名とするなど、迅速な意思決定と実行力のある多様な組織体制を目指し、大学運営に努めている。(項目 82)
- ・内部統制システムの構築に取り組み、内部監査の実施やコンプライアンス効果に向けた各種規程の見直しを推進している。(項目 83)
- ・県内初となる社会福祉領域の長野大学大学院総合福祉学研究所を開設した。(項目 87)
- ・専門業務型裁量労働制が導入された。(項目 90)

- ・教員業績評価制度が運用され、全教員を対象として評価することで教員の資質の向上に努めている。(項目 91)

以上、法人のこれまでの業務実績を総合的に勘案すると、**B評価（中期目標の達成状況は概ね良好である）**が相当である。

#### イ 今後の課題とする事項

- ・既存学部再編及び理工系学部の設置に向けた構想案が策定され、一定の成果が出ているが、今後、中長期の教員採用計画や施設整備に向けて、着実に進めてもらいたい。
- ・理事会、経営審議会、教育研究審議会など、ジェンダー、年齢、国籍など、多様なバックグラウンドを持つ人によって構成される組織を構築し、健全な運営はもちろん、大学の魅力に転換することを期待する。
- ・長野大学ビジョンの実現に向けて、常に経営目標の達成状況を点検し、大学運営に反映するように取り組むことが望まれる。
- ・第1期中期目標期間中に発生したコンプライアンス違反を重く受け止め、再発防止を徹底するとともに、公立大学教職員としてのコンプライアンスに対する意識向上を図ってもらいたい。

【参考】過去の評価における中期目標及び中期計画の進捗状況評価

年度	H29	H30	R1	R2	見込	R3	R4
評価	C	C	B	B	B	B	B

進捗状況評価基準
A：順調、B：概ね順調、C：やや遅れている、D：遅れている

#### (6) 第4 財務内容の改善に関する目標

<b>B</b>	中期目標の達成状況は概ね良好である
----------	-------------------

#### ア 評価理由

- ・学ぶ意欲の高い志願者を確保するため、オープンキャンパス、高校訪問、ホームページ等の様々な媒体を通じて、大学の特徴や学びの内容の周知に努めている。(項目 100、101)
- ・入学定員の確保に向けた取組を行い、目標の一般入試倍率5倍以上を達成している。(項目 103)

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
一般入試倍率[倍]	21.7	8.3	9.1	6.5	7.3	6.9	7.4

- ・競争入札制度の活用、複数年契約の導入、省エネルギー化の推進、事務系システムの導入などにより、業務運営の効率化や経費削減に取り組んでいる。(項目 112、113)

以上、法人のこれまでの業務実績を総合的に勘案すると、**B評価（中期目標の達成状況は概ね良好である）**が相当である。

#### イ 今後の課題とする事項

- ・経営の安定化に向けて、科学研究費補助金等の競争的研究資金などの外部資金のより一層の獲得など自己収入の増加を目指してもらいたい。
- ・ICTを活用した業務改善など、業務の効率化に努めてもらいたい。

【参考】過去の評価における中期目標及び中期計画の進捗状況評価

年度	H29	H30	R1	R2	見込	R3	R4
評価	B	B	B	B	B	B	B

進捗状況評価基準
A：順調、B：概ね順調、C：やや遅れている、D：遅れている

## (7) 第5 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標

<b>B</b>	中期目標の達成状況は概ね良好である
----------	-------------------

### ア 評価理由

- ・毎年度、業務実績について自己点検を行い、上田市公立大学法人評価委員会による評価や指摘事項についての対応もホームページ上に公開している。(項目 119)
- ・ホームページ上で法令上公表が定められている事項や教育研究、地域貢献活動の成果などを公開し、社会に対する説明責任を果たしている。(項目 123)

以上、法人のこれまでの業務実績を総合的に勘案すると、**B評価（中期目標の達成状況は概ね良好である）**が相当である。

### イ 今後の課題とする事項

- ・大学の自己評価において、エビデンスを元に評価基準を踏まえ評価されたとは確認できないものが散見された。法改正により、評価委員会による年度評価が廃止されることとなったが、今後は第三者の理解を意識して、より丁寧な自己評価を行うことが必要である。

【参考】過去の評価における中期目標及び中期計画の進捗状況評価

年度	H29	H30	R1	R2	見込	R3	R4
評価	B	B	B	B	B	B	B

進捗状況評価基準
A：順調、B：概ね順調、C：やや遅れている、D：遅れている

## (8) 第6 その他業務運営に関する目標

<b>B</b>	中期目標の達成状況は概ね良好である
----------	-------------------

### ア 評価理由

- ・老朽化に伴う施設修繕に加え、学生からの要望による駐輪場やトイレの整備など、計画的に施設の維持管理に取り組んでいる。(項目 125、126)
- ・照明のLED化による環境負荷の低減や、節電節水など省エネルギー、省資源化に取り組むなど、環境に配慮した取り組みを行っている。(項目 134)

以上、法人のこれまでの業務実績を総合的に勘案すると、**B評価（中期目標の達成状況は概ね良好である）**が相当である。

### イ 今後の課題とする事項

- ・災害時の危機管理体制や情報伝達など、危機管理マニュアルの更新をさらに進めていくことが望まれる。

【参考】過去の評価における中期目標及び中期計画の進捗状況評価

年度	H29	H30	R1	R2	見込	R3	R4
評価	B	B	B	B	B	B	B

進捗状況評価基準
A：順調、B：概ね順調、C：やや遅れている、D：遅れている